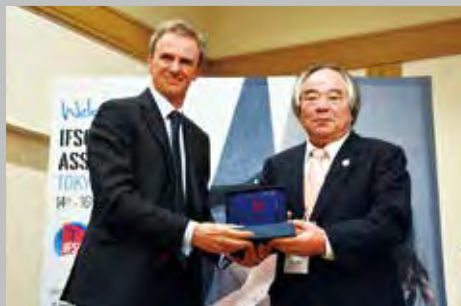


登山月報



シュガーローフ(6,455m)



国際スポーツクライミング連盟総会開催	2
第5回ボルダリングユース日本選手権倉吉大会	3
第127回 Mountain World	5
新連載 『日山協と私』	6
2019年「みんな集まれ! 那須甲子雪あそび隊」	7
富士山 2019年度 氷雪技術研修会、主任検定員養成講習会、 上級指導員養成講習会報告	8
第13回山岳スキー競技日本選手権大会 開催報告	9
UIAA 登山部会セルビア会議を終えて	11
JMSCA、寄贈図書、表紙のことば、編集後記	12

2019年の国際スポーツクライミング連盟（IFSC）総会は本協会（JMSCA）がホスト国となりアジア大陸協議会（Asian Continental Committee（ACC））総会と共に3月15日、16日と東京・品川プリンスホテルにて行われた。

自分自身はこのような総会に出席させて頂くのは2回目となり各IFSC加盟国代表が集まる中、JMSCA代表として、八木原会長、合田常務理事と共に総会における様々な決議の中で意見や意思を伝えさせて頂いた。IFSC総会には37の国と地域から122名が参加した。

ACC総会

まず3月15日に行われたACC総会では、アジアユース選手権見直しの件でインドでの国際大会でパキスタン選手にビザを発行しなかった事例が発生したため国際大会の開催についてIOCより懸念が示され、議論の末、この件に関しては6月30日までに決定することになった。さらに我々が開催する2020年アジア選手権盛岡大会のプレゼンは、自分自身が担当し、日程の変更についても承認を頂くことができホッしている。しかしながら放映権についてはIFSCにあることがIFSC、ACC、JMSCAとの間で確認され、これまで放映権は開催側にあったが今後そのあたりの収入源はIFSCと交渉しなければいけない状況となった。そして最後に、一度はACC総会の次回開催はイランで行うことで承認されたがIFSC総会后、ACC総会をIFSC総会と同じキプロスで開催することが決定された。

IFSC総会

翌日の3月16日はIFSC総会が開催され、やはり各NFの最大の関心は、東京2020年オリンピックに対



しての選考ルールでIFのジェロム・メイヤーから説明された。その結果、我々NFに託された選手のセレクションをどのように進めるのか理解を十分深める事ができ、現在発表されているIOCに提出する選考方法に反映されている。またその先のパリ2024年オリンピックに関しては、過日発表された男女合わせてメダルが4つに増える形でIOCへ提案されているが、2020年11月にIOCから正式な種目が発表されることが伝えられた。

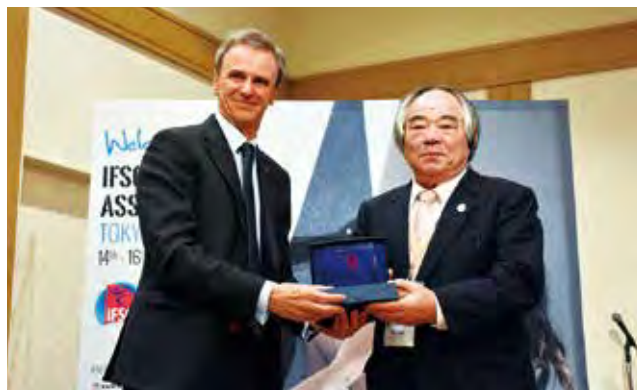
それから重要な決定としてはIFSCの役員任期が「1期4年、3期までとし、最終任期については選挙によってもう1期延ばすことができる。」という決定が各国の思惑が飛び交う中、投票で決まった。

さらにIFSCスポーツデパートメントからは小日向IFSC副会長から、スポーツとしての発展を目指すために観戦での分かり易さ、そしてクライミング用品の公認システムの確立などを話され、今後、ホールド、ロープ、マット、シューズ、チョーク、ハーネスなど公認認定がないと大会での使用が認められないと言う事がこのオリンピックを機に大きく動くことをIFとしてプレゼンされた。

次にイベント関係では世界選手権八王子大会について自分がプレゼンさせて頂いた。現在までの大会準備状況を説明させて頂き、さらには日程的に懸案になっ



世界選手権のプレゼンする平山副会長



ゴールデンメンバーの盾を授与される八木原会長

ていた世界選手権八王子大会においてパラクライミング世界選手権の同時開催について話した。フランスでのパラクライミング世界選手権開催案も上がっていて、パラクライミングの別開催案を総会での決議をお願いした。まずは従来のそれぞれ単種目の世界選手権だけではなくオリンピックフォーマットを完全に取り入れたコンバインドフォーマットの4日間がさらに必要となり、大会運営が逼迫していることを自分から説明させて頂いた。単種目だけでそれぞれの会場で開催されていた時代は会場確保や人員確保も7日間ほどで完結していたものが、スピード、ボルダー、リードさらには完全な形でのオリンピックフォーマットをこなさなければいけないと言うIF側からの要求も重なる中でパラクライミングの世界選手権を完全に開催するには現在最大限抑えられる3週間の会場使用と人員確保では行えない事が明らかになってきていたからだ。総会ではこの件についていくつかの意見が上がる中で、昨年世界選手権を開催したオーストリアから同時開催の難しさを昨年の開催経験からはっきりとした発言もあるなど開催側の負担が想像以上に大きいことが伝えられた。そして最終的な決議では反対票は1票もなく各NFからの賛成支持により承認されることになった。この開催国負担に関してはこの先も続く問題で、世界選手権2021年モスクワ開催は承認されたが、未だに世界ユース選手権2020年は立候補が上がってきていないのが現状だ。

F I S E 広島2019

最後にF I S E 広島について簡単に説明したい。昨年日本に初上陸したこの大会はアーバンスポーツの祭典として世界各地で開かれている。F I S E 広島2019でもスケートボード、BMX、パルクールなど街中で行

われているスポーツの中にスポーツクライミングが加わり広島旧市民球場跡地にて4月19日(金)から21日(日)の間で開催された。我々のSport Climbingには海外選手も含め48名が参加した。

Bouldering World Cupシーズン最中のため主力選手の参加はなかったが、F I S E用の新しいフォーマットが採用され他のアーバンスポーツが放つ空気感に一步近づいたように感じた。同時に参加して楽しいと言う空気感がこれから多くの人々を魅了していく可能性を感じている。

(JMSCA副会長 平山ユージ)



中川瑠選手



スポーツクライミング体験

第5回ボルダリングユース日本選手権倉吉大会

今や日本代表を何人も輩出するユース世代の大会は今後活躍し注目されるであろう若手選手を知る絶好の機会である。第5回目となる今大会は、全国から361名の選手が集まり、これまでで最大規模となった。

会場：鳥取県立倉吉体育文化会館

期日：5月18日(土)

予選 コンテスト方式(8課題)

5月19日(日)

決勝 ワールドカップ決勝方式(3課題)



男子ジュニアは、4月のF I S E広島を制した土肥をはじめとした実力者が集まり、激戦となった。決勝では、小西が気迫のクライミングで一挙一手に集中し、3課題すべてを一撃し、優勝を決めた。土肥、今泉も3完登したものの、アテンプト差で2位、3位となった。女子ジュニアは、数多くの国際大会に出場している中村の実力が抜きんでており、予選・決勝ともに全課題を完登して優勝を決めた。2位以下のメダルの行方が注目されたが、黒岡が2完登で、ボルダリング種目で初のメダル獲得となった。また、3位には1完登の張替が入り、うれしい初メダルとなった。

男子ユースAは、4月のWCモスクワ大会5位の川又のパフォーマンスに注目があつまった。川又は予選を全完登し、決勝でも第3課題こそ登れなかったものの2完登で優勝した。2位、3位には同じく2完登の竹田と百合草が入った。

今回、もっとも注目を集めたのは実力伯仲している女子ユースAの優勝の行方である。予選で5完登にとどまった菊地は決勝では的確な読みでよどみないクライミングを見せ、3課題とも一撃し、優勝を勝ち取った。2位、3位には同じく3完登の松藤と平野がアテンプト差で入った。

ユースBは男子51名・女子59名、ユースCは男子61名・女子44名の参加を得た。次世代の日本を支えるクライマーが集結し、レベルの高い争いを見せた。ただし、上位層の実力が抜きんではいるが、ユース世代の強化が進む世界の趨勢を見たとき、上位層のさらなる実力アップとそれに続く実力層の充実がさらに必要になるだろう。

今大会はこれまでで最も大きい30mの仮設壁を設置した。昨年11月に同会場で開催したアジア選手権の壁と同規模であり、セッターは多彩な課題のセットが可能となった。イマジネーション豊かに工夫したセットは多彩なムーブを生み出し、各選手の多様なパフォーマンスに繋がった。世界で活躍できるクライマーを育

成するためには、ユース大会においても十分な壁の大きさが必要であると感じた。

今大会の運営を支えた鳥取県山岳・スポーツクライミング協会のスタッフは昨年アジア選手権を経験しており、その経験がスムーズな大会運営につながった。選手が十分なパフォーマンスを発揮するには、良質な競技会場の提供とともに、スムーズな大会運営も大切である。倉吉という地方都市で開催してきた全国大会や国際大会の運営のノウハウを日本各地に伝えていくことも、日本全体のスポーツクライミングの隆盛のために必要であると感じた。

(競技委員 山田佳範)

【成績】()は所属

男子ジュニア	女子ジュニア
1位 小西 桂	1位 中村 真緒(東京)
2位 土肥 圭太(鹿児島)	2位 黒岡 水夢(大阪)
3位 今泉 結太(茨城)	3位 張替 夢乃(東京)
男子ユースA	女子ユースA
1位 川又 玲瑛(栃木)	1位 菊地 咲希(東京)
2位 竹田 創(宮城)	2位 松藤 藍夢(神奈川)
3位 百合草 碧皇(埼玉)	3位 平野 夏海(東京)
男子ユースB	女子ユースB
1位 関口 準太(栃木)	1位 中川 瑠(大阪)
2位 吉田 智音(奈良)	2位 小池 はな(埼玉)
3位 西浦 暖礎(和歌山)	3位 小倉 紗奈(奈良)
男子ユースC	女子ユースC
1位 通谷 律(佐賀)	1位 抜井 美緒(奈良)
2位 安楽 宙斗(千葉)	2位 菊川 花恋
3位 藏敷 慎人(兵庫)	3位 鈴木 結菜(静岡)

【データ】

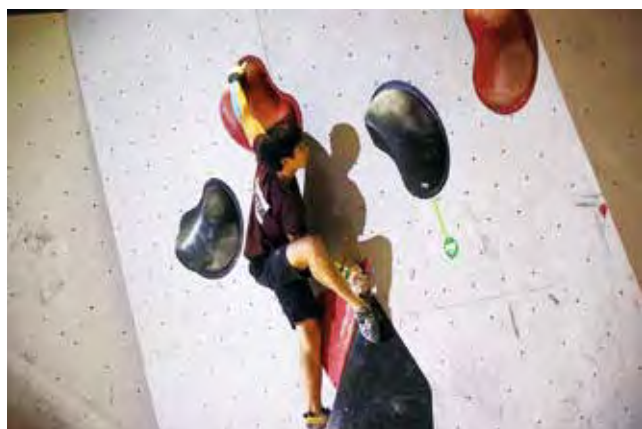
参加選手：361名

(男子204名、女子157名、43都道府県)

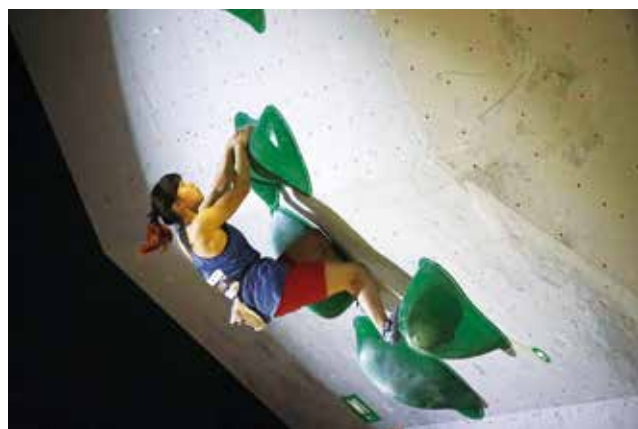
観戦者合計：841名

メディア：17社

販売数：パンフレット43冊、ポスター9枚



小西桂選手



中村真緒選手

第127回 Mountain World

エヴェレスト登頂800人超えも11人が死亡

池田常道

この春のエヴェレスト登頂者は、前年に引き続いて800人を突破した一方、遭難死も急増、11人が亡くなった。遭難死が二桁を記録したのは、アイスフォールの雪崩事故でシェルパなど16人が犠牲になった2014年春以来のことである。エヴェレスト以外の8000m峰でもカンチェンジュンガに58人、マカルーに25人、アンナプルナに32人と多数の登頂成功をみた一方、カンチェンジュンガとマカルーでそれぞれ3人、ローツェ、アンナプルナ、チョー・オユーでも死亡事故があり、8000m峰全体の死者は合計21人に達した。

これら犠牲者の大半は頂上、あるいはその直下から下山中に急性高山病(脳浮腫、肺水腫)に倒れたもので、ほとんどが公募登山隊クライアントだった。

インドのラヴィ・タクールは登頂後サウス・コルまで帰ってきたが、テントの中で死んでいるのが発見された。アイルランドのシームス・ローレス(39)は通称バルコニーから転落して行方不明。アメリカのドナルド・キャッシュ(55)は頂上に立った直後に倒れ、シェルパに付き添われてヒラリー・ステップまで下りてきたものの、そこで2時間以上も順番待ちを余儀なくされている間に亡くなってしまった。複数の有力公募隊が崩壊し、隊長2人を含む多数の犠牲者を生んだ1996年春の悲劇を想起させる。

今季のエヴェレスト南面は、インド洋沿岸を通過したサイクロンの影響で頂上までのルートが開通したのが5月14日。加えて昨年のように持続する好天が得られず、頂上攻撃は5月15～16日と22～23日の好天の窓に集中した。とくに後者では、連日300人以上がゴールを目指したため、バルコニーから南峰を越えて頂上稜線まで長い行列ができてしまった。掲載した写真は英陸軍グルカ連隊の元兵士、ニルマル・プルジャ(通称ニムス)が撮った登頂当日のショットだが、彼は渋滞を切り抜けて頂上に立った。

無酸素登頂を狙っていたドイツのダーフィット・ゲトラーは、渋滞を避けようと遅めにサウス・コルを出たのが裏目に出て南峰の先で足止めされ、長時間の待機は身の危険にかかると、8650mから引き返した。



ニルマル・プルジャがインスタグラムに投稿したエヴェレスト頂上稜線のショット。5月22日の大渋滞

*

一方、チリのフアン・パブロ・モールは23日、渋滞をすり抜けたか待機を甘受したか、同国人初の無酸素登頂に成功した。

ネパール側では今季、外国人登山者に対して381通の登山許可を出したが、チベット側は142通(ネパールシェルパを除く)に制限した。このため、ルート開通が5月22日までずれ込んだにもかかわらず、南面のような混雑は避けられ、各隊は支障なく登山活動を行うことができたと言われている。多数の登山者を受け入れることのデメリットは、事後のゴミ処理問題などにも及ぶわけで、中国当局の規制策は、過熱する最高峰詣でを解決するひとつの方策と言えるかもしれない。いかに需要があるとはいえ、外貨獲得のため殺到する登山者を無制限に受け入れる方針は再考を迫られているのではないだろうか。

ニルマル・プルジャは8000m峰×14座を7か月で完登するProject Possibleを立ち上げ、今季はエヴェレストを初めカンチェンジュンガ、マカルー、ローツェ、アンナプルナ、ダウラギリの6座を4週間のうちに登頂した。移動にはヘリを駆使し、同行シェルパもその都度フレッシュメンバーを雇用するなど問題点も指摘できるが、アンナプルナでは公募隊が放置した遭難者を救出(帰国後に死亡)するなどの貢献もした。夏にはパキスタンのK2以下5座、秋のマナスルとチョー・オユー、シシャパンマで完結するという。



『日山協と私』

富山県山岳連盟 松本 陸男

「JOCジュニアオリンピックカップ大会」と 「ジュニア登山教室 in 立山」のこと

私の日山協とのかかわりは、富山岳連の事業に関わるようになってから長年にわたっているが、岳連会長時代の日山協事業のことにふれてみたい。

夏、JOCジュニアオリンピックカップ大会の季節がやって来る。この大会は第1回が埼玉県川口市において開催され、第4回大会(2001年)から富山県南砺市(旧城端町)桜ヶ池クライミングセンターにおいて開催されている。私が大会役員として携わることになったのは、平成19年10回大会から17回までの8年間であったが、回を重ねる毎に「ジュニアクライミングの聖地」と呼ばれるようになり、その名にふさわしく多くのジュニアの選手が全国から集まってくるようになった。日本山岳協会が50周年を迎えた平成20年の11回大会では、男子は33都道府県から162名、女子は30都道府県から101名の参加となり、各県のジュニア育成の努力があり増加してきたことから、今ではエントリー数が制限されるまでになっている。

10回大会の頃は、選手も運営役員もサンダルを履いており、大変見苦しかった。スポーツマンらしい服装で臨むべきであると苦言を呈した。その後、国民体育大会でも服装などの規定もされ、選手、役員に浸透した。今ではサンダル履きは見られない。

元会長の田中文男氏には、2001年就任以来10年間も来県され、ジュニアの選手育成となる大会にご尽力いただいた。この大会を巣だった選手が国民体育大会やワールドカップで活躍し、2020年東京オリンピックで追加種目となったスポーツクライミングの強化選手となっていることは大会を主管した富山岳連として大変嬉しいことである。

また、大会運営に南砺市の支援をはじめ多くの関係者の協力があり継続できたものであり、平成17年(2005年)第8回大会から総務省のスポーツ拠点づくり推進事業に認定されたことも大会継続への大きな力となった。尾形専務理事には総務省との折衝など認定にご努力をいただいたこともあった。国内の各地でクライミングの各種大会が開催されているが、2020年東京オリンピックの年に桜ヶ池での大会も20回を重ねることになる、今年、甲子園では第100回記念大会が開催された。“つかめ夢のホールド桜ヶ池の空へ”の20回記念大会となることを願っている。

もう一つジュニアの育成に協会の50周年を記念して開催された「ジュニア登山教室 in 立山」がある、各県協会(岳連)が行って来た少年少女登山教室の全国版として、平成22年夏に第1回が開催された。「立山青少年自然の家」「国立登山研修所」「立山カルデラ砂防博物館」の施設があり、立山という自然のランドがあることから富山の地が選ばれたのであろう。本木総子副会長、西内博・仙石富英常務理事ほか日山協の実行委員会の綿密な計画のもと開催された。富山岳連からは登山と登山研修所でのクライミング体験に第1回大会以後、スタッフを派遣してきた。

本木実行委員長は、子供をその気にさせる話術があり、現役時代の職業経験を活かした運営が見事でした。私は第1回から5回まで何らかの形で協力することが出来た。この教室はジュニアに自然に親しむ機会をつくり、登山や集団生活の体験を通じて少年少女を育成することが目的の1つであるが、高齢化していく山岳界において次世代を背負う人材になることを期待したいものである。

このように日山協創立50周年以降、ジュニアの育成に重点的に取り組んできたことと各県の山岳協会(連盟)が一体となって推進してきた今、成果が出てきている。人と人との出会いがつながり大きな力となって組織が強固になっていく。やれば出来る。協会の創立60周年を機に、全国の山岳団体が活性化し、山岳界の発展に尽力しようと呼びかけたい。



JOCジュニアオリンピックカップ大会



ジュニア登山教室 in 立山

2019年「みんな集まれ！ 那須甲子雪あそび隊」

登山普及委員会の昨年度最後の行事である「那須甲子雪あそび隊」が3月29日～31日で国立那須甲子青少年自然の家を中心におこなわれた。この行事の目的は子どもたちに雪あそびを通して、山の楽しさを体験してもらうことである。参加した子どもたちは小学生が8名、中学生が3名である。今年は例年と比べて雪が少なく自然の家の周辺にも雪がほとんどなく「雪あそび隊」ならず「雪さがし隊」になったが、福島県山岳連盟会長の三森一男さんが直前に下見をして、そり遊びのできそうな雪の残った斜面を探しておいてくれた。感謝の至りである。

29日、7時に新宿をバスで出発。10時半頃自然の家に到着し、開講式の後昼食。午後は現地の講師による森林自然観察をした。約3時間自然の家の周辺を歩き回り植物の観察をした。これは勉強になるので雪のあるなしにかかわらずやるとよい。子どもたちも熱心に講師の方の話を聞いていた。夕食後はキビタルームで以前この自然の家で館長をなさっていた佐藤修さんによる「河童のすり鉢」のお話とヒマラヤスギの松ぼっくりを使ったクラフトをおこなった。「河童のすり鉢」のお話は子どもたちの印象に残ったようで、翌日行った下郷村の道の駅で「河童のすり鉢にちなんだお土産はないのですか？」と聞いてくる子もいた。

30日は6時起床。7時の朝食の後、「朝のつどい」日本で英会話の講師を養成する「ジョイトーク」という団体と一緒にあった。80名くらいの様々な国の人が出てとても刺激になったようだ。「ハロー、ハロー」を連発している子もいた。その後、三森さんが探してくれた赤面山に行く途中の展望所下の斜面でそり遊び。雪があってよかった。昼食のおにぎり弁当の後はバスに乗って観音沼に行った。自然の家のあたりは霧におおわれていたが、トンネルを抜け山を越えて観音沼に着



くと青空が広がっていた。風は強かったが、1時間くらいかけて沼のまわりを一周した。途中展望台に登った。子どもたちはとても元気で意欲的だ。魚や植物、いろいろなものに興味を示す。このままますます成長してほしい。そり遊びができそうな斜面もあるので、そりやスノーシューを持っていてもよかったかも。帰りに下郷村の道の駅に寄ってお土産を買ったりした。夕食後はお楽しみ会。わんぱくルームで中学生2名がリードして「人狼ゲーム」をやって盛り上がった。

31日。朝、日頃のおこないがよかったのか、なんと雪が降った。2～3センチ積もるくらい。子どもたちは大喜び。朝食後さっそくそりを持って自然の家裏のグレンデへ。本当にうっすらだが白くなっている。それでもそりで滑るとおもしろいように滑る。距離にして100メートルくらい。そり遊びに興ずる子、あちこち雪の斜面を歩き回る子。少ない雪であったが雪だるまもふたつできた。記念の写真をパチリ。その後で閉講式。振り返りで3日間の感想を書き、総隊長の本木さんからひとりひとりに修了証と記念の缶バッジが手渡された。昼食後13時、バスに乗って新宿へ。自然の家のスタッフが総出で手を振って見送ってくれた。天気はどんどん回復し、那須連峰が白く輝いていた。心配していた渋滞もなく予定よりも早く新宿に到着、無事に子どもたちを家族に引き渡すことができた。



大西洋に浮かぶアゾレス諸島の3島を巡る

ポルトガル最高峰登頂と
魅惑のアゾレス諸島ハイキング 10日間

発着地

東京・大阪

出発日

9/5(木)

旅行代金

496,000円

※燃油サーチャージ(2019年5月20日現在:目安約21,000円～41,000円)が別途必要です。

旅行企画・実施 観光庁長官登録旅行業第490号 / 日本旅行業協会正会員 / ポート保証会員

ALPINE ツア サービス 株式会社

本社 〒105-0004 東京都港区新橋3-2-5(第5東洋海事ビル4階) ☎03-3503-1911

大阪 ☎06-6444-3033 名古屋 ☎052-581-3211 福岡 ☎092-715-1557

e-mail: info@alpine-tour.com http://www.alpine-tour.com

当初心配していた「雪探し」だったが、なんとか「雪あそび」ができてよかった。

また来年も3月29日～31日の日程で実施する予定です。よろしくお祈りします。

(登山普及委員会委員長 谷口浩平)

富士山 2019年度 氷雪技術研修会、主任検定員養成講習会、 上級指導員養成講習会報告

平成31年4月27日(土)～28日(日)

平成最後の研修会として、富士山において 氷雪技術研修会および主任検定員養成講習会、上級指導員養成講習会が富士山5合目佐藤小屋を宿泊地、机上講習会場。周辺を講習会場として開催された。

今回は研修4名、A級主任検定4名、上級指導員養成講習2名、講師3名、山梨県スタッフ4名の計17名での開催となった。

今年の富士山はゴールデンウィーク直前まで スバルラインが開通せず、心配しました。行きは何とか開通しましたが、我々の便で通行止め。翌日も27日の降雪で快晴ではありませんでしたが除雪が追い付かず、4合目までしか開通せず、馬返しまでもタクシーが来ないとの事で4合目まで歩きとなりました。例年より雪が少なかった状況でしたが、何とか講習は実施。今回は、上級養成の受講者が少なくなり全体的に少数になりましたが、それだけ内容の濃いものになったと思います。

以下に参加者の代表の感想を掲載いたします。

(指導委員会 野村)

受講生 感想

富士山AC氷雪技術研修会に参加して

北海道山岳連盟 加藤陽子

今回、4月27日、28日で行われた、主任検定に参加させていただきました。大好きな富士山での検定に、楽しみ2割、緊張8割の気持ちで参加させていただきました



ロープワークの講習

ました。バスは、途中より雪が降り出し、私達の乗ったバスを最後に運行が中止になり、ぎりぎり歩くことなく、佐藤小屋にたどり着くことができました。出だしから運がいいなーと喜びのスタート。(帰りは、4合目までしか、バスが開通しておらず、2時間重い荷物を背負い歩くことになりましたが…)

佐藤小屋に到着後の机上講習受講では、指導者は、初心者をつれ一般登山道を歩ける人、悪路があったらフィックスロープを張り、安全に通過させる。2～3m滑落した人を、救助が来るまでに、安全な場所に上げられる。雪渓があるとき安全に歩ける指導を行う人が求められるとの言葉に、指導要綱の全てが凝縮されている。今まで技術を個々でしか見ていなかった私でしたが、指導要綱の内容の意味が理解することができました。

夕食後の懇親会では、様々な山の情報交換が行われ、楽しく、有意義な時間を過ごさせていただきました。

2日目は、実技検定です。佐藤小屋より少し離れた場所に移動し、検定が開始され、積雪期での歩行技術説明、アックスの名称や用途、使用方法の説明、スタンディングアックスビレーの説明と実技、支点の構築方法、滑落停止、耐風姿勢など多くの実技検定が行われました。緊張のため、うまく説明できないこと多く、自身の不出来に、更に緊張が強まる悪循環の中の検定でした。検定の中で、学び深かったものは、支点の強度の確認のため、支点にロープをつけ2～3人で引っ張り確認する。確認時は、支点にしているアックスが飛び受講者にぶつかる可能性があるため、必ず、アックスが飛ばないように支点の確保を行い実施する。ロープ操作では、今まで、仮固定の際にも仮固定+バックアップ結びを行っていたが、仮固定は最小限の操作で、また、止め結びも、次にアクションを起こす際に、最低限の動作で済む結び方を行う。今までロープがねじれた際に、もう一回やり直さなければいけないと、慌て、戸



参加者たち

惑っていた動作が、ねじれを利用した中通しの結び方を行うことができるということを知りました。また、検定の中で、いかに受講者にわかりやすい言葉を使うか、初心者は、私達が思いもしないような行動をとることがあるので、別の意味でとれる言葉は使用しない、指導の対象は誰なのか？対象に合わせた説明方法を行うことの重要性を学ぶことができました。そして、検定の中でも、他の受講者の説明方法を聞くことにより、こういう方法で説明するとより更にわかりやすくなると、

学ぶことができました。

今回の研修で、経験豊富な指導者と受講者の皆様から多くのものを学び、JMSCAで行われる研修の意義と有効性を理解することができました。緊張の中でしたが、楽しく学ぶことができました。2日間ご指導して頂いた指導者の皆様、参加者の皆様ありがとうございました。

第13回山岳スキー競技日本選手権大会 開催報告

4月6日(土)、7日(日)の両日に亘り、長野県梅池高原において、第13回目となる山岳スキー競技日本選手権大会が開催された。この山岳スキー競技は、2020年2月にスイスで開催されるユース冬季五輪において実施種目となり、今まさに国際連盟(I SMF)は世界への普及を図っている。その動きに合わせて、今年の日本選手権でも、年齢カテゴリー分けをI SMFの規定に合わせてシニア(21歳以上)、ジュニア(20～18歳)、カデット(17～15歳)に分けて実施した。また種目も、例年行っていたインディビジュアル種目にバーチカル種目(登りだけの種目)を加えて2種目を実施した。

参加申し込みは過去最高の71名。バーチカルに45名、インディビジュアルに68名の参加となった。

6日(土)は午前中に、シーズンオフで閉鎖となったゲレンデを使用してバーチカルのレースが開催された。始業前の Gondola 乗り場に選手は集合し、そこでゼッケンを受け取りブリーフィングを済ませ、Gondola に乗る。強風で Gondola の始業がやや遅れたものの、その間にもコースセットをするスタッフは、スキーでゲレンデを登ってコース準備をして対応した。レースは15分遅れの9時15分スタート。標高差430mのコースを、トップ選手は25分かからずに登る。1時間かからずにすべての選手がゴールし、レースは無事に終了。

午後は観光協会の建物をお借りして、大会の開会式が行われた。この場は、山岳スキー競技に関係する人と企業が集まる貴重な場にもなっている。会場の後方では協賛企業がブースを出し、競技用品の販売や情報交換に賑わいを見せていた。今年は合計8社がブースを出し、これも過去最高であった。開会式の後、午前中に行われたバーチカル種目の表彰式と翌日のイン



バーチカルスタート

ディビジュアル種目のブリーフィングが行われた。また式が終わった後は、今年3月にスイスで開催された世界選手権の様子を、日本代表チーム監督の松澤幸靖山岳スキー委員より報告してもらった。ほとんどの選手が会場に残って報告を楽しみ、またブースを覗いて用具を見たりと、最後まで盛り上がり絶えない開会式となった。

夜に天候が崩れる予報で気を揉んだが、7日(日)の朝は思ったほどの悪天ではなかった。前日より上部の山小屋に泊まっている雪崩管理担当者やスタッフと連絡を取り、コースの短縮や変更のない予定通りのコースで実施することを確認する。幸いに天気の崩れは小さく、レースは曇り空ベースのもと進行した。

定刻9時00分に競技スタート。八木原会長のスタートの合図のもと、キャンセルを除いた65名が一斉に駆け出していく。毎年悪天などによりコース短縮が多かったため、フルコースで競技が行われるのは2014年大会以来。シニア男子では累積標高1540m、沿面距離にして14kmのコース中に、合計5回の登り下りがある。女子は累積標高1100m、距離11kmで4回の登り下



インディビジュアル・シニア女子トップ3

りである。

最近に降った雪が高温で腐り、今年のコース状況は滑りにくいものとなった。滑降では多くの選手が苦勞したようだ。また緩傾斜ではスキーが滑らないことを口にする選手も多かった。そんな中でし烈なトップ争いを制したのは、小川壮太選手であった。2時間2分17秒でゴール。2連覇となった。2位にベテラン藤川健選手。3位は加藤淳一選手。女子は、1位星野緑選手で3連覇。2位に若い滝澤空良選手が入り、3位渡邊ゆかり選手であった。

悪い雪質でフルコースでの実施となったため、今回はタイムアウトの選手も多くなってしまった。またスキーが折れたり、体調不良で途中棄権の選手もいた。コースの厳しさや難しさはこの種目本来のものでもあるので、日本選手権ではそのクオリティは維持したいと考えるが、競技普及の意味では、出来るだけ多くの選手に完走してもらい、競技の面白さを知ってもらいたいと思う部分もあり、また来年の課題にしたい。

今年は競技中に、上位選手を表彰するフラワーセレモニーも取り入れた。競技会場の雰囲気そのままに、上位選手がスキーを掲げて表彰台に上がる様子は、大変写真映えするものであった。またスタートやゴール地点で、大会を盛り上げるMCを田中ゆうじん氏にお願いした。競技運営側との連携など課題はあったが、おおむね好評であった。今後はこうした見せる競技としての意識も必要であろうと思う。

—— 今シーズンを振り返って ——

山岳スキー競技を競技として確立し、またJMSCAが競技団体として成り立つように、今シーズンは日本各地にある私設大会を公認大会としてとりまとめ、ポイント制度を試行した。それによって全国の大会や選手の、横のつながりは強くなり、同一の競技をしているという意識は高まったと思う。そしてシーズンを通して競技に取り組む姿勢も強くなり、また参加する選手も増えたと感じる。

将来的には選手登録や大会登録によって費用を集



インディビジュアル・シニア男子トップ3

め、競技運営を賄えるようにしたいが、まだ現在は競技の普及振興を第一にすべき時期かと考えている。ようやく一体感が生まれ、ジュニアやカデットも含めて参加者が増えてきたところであり、今後もこの流れを大切に、競技の普及に努めていきたい。

(山岳スキー委員会 澤田 実)

各種目上位入賞者

バチカル種目	インディビジュアル種目
シニア男子	シニア男子
1 加藤 淳一	1 小川 壮太
2 星野 和昭	2 藤川 健
3 小川 壮太	3 加藤 淳一
4 藤川 健	4 星野 和昭
5 松澤 幸靖	5 貝瀬 淳
6 遠藤 健太	6 小野 雅弘
シニア女子	シニア女子
1 滝澤 空良	1 星野 緑
2 星野 緑	2 滝澤 空良
3 上田 絢加	3 渡邊ゆかり
4 渡邊ゆかり	4 加藤 倫子
5 鈴木 美岐	5 上田 絢加
6 渋谷 花恵	6 飯田 直子
ジュニア男子	ジュニア男子
1 島徳 太郎	1 島徳 太郎
カデット男子	カデット男子
1 駒井 夏人	1 駒井 夏人
カデット女子	2 手塚 慧介
1 笹川 笑子	ショート
※山岳スキー委員会の澤田実委員長は、去る5月17日にロシア・カムチャッカ半島のカーメン峰(4,579m)に登頂後、下山中に遭難死されました。茲に謹んでご冥福をお祈り申し上げます。この原稿は、出発前に入稿されたもので遺稿となりました。	1 太宰 智志
	2 曾根 慎一
	3 松井 諒史
	4 岩楯 岳一
	5 田中 義朗
	6 七宮 勝広
	ビギナー
	1 大島 健
	2 仲健 一郎
	3 山田 朝陽
	4 池田 美貴
	5 鈴木 颯人
	6 鈴木 美岐



UIAA登山部会セルビア会議を終えて

—登山部会・部会長の選出—

UIAA登山部会定例会議が2019年3月30日～31日に、セルビア(Serbia)の首都ベオグラード北方に位置するセルビア第2の都市ノビサド(Novi Sad)で開催された。当会議は、セルビア山岳協会 Mountaineering Association of Serbia (MAS)の主催で開催され、12ヶ国18人メンバーが集まった。

会議は、MASの会長ISO PLANIĆ氏の挨拶から開始した。

1. UIAA登山部会会長選挙について

今回の会議の最大の目的は、登山部会における前部長クラウディオ・ミルキオリ氏(Claudio Melchiorri)が、彼の属するイタリア山岳会(CAI: Club Alpino Italiano)のUIAAからの離脱に伴い、部会長を継続する事ができなくなり、次期部会長を選ぶ選挙であった。

選挙の結果、新部会長には、元UIAA副会長であるPeter Farkas氏が選出された。彼はハンガリー出身のクライマーで、様々な岩場で実績を重ねた後、ハンガリー山岳スポーツクライミング連盟MHSZ (Hungarian Mountaineering and Sportclimbing Federation)の会長を経て、UIAAへの活動の場を広げた。登山部会とは担当理事の立場で関わってきた。専門は長年ハンガリーの都市計画などにかかわってきた土木工学家である。

続いて、副部会長にはキプロスのPavlos Georgiades氏が選ばれた。一方、UIAAの標準化教育を担当してきたTraining Panelは再び組織名称を変更し、登山教育小委員会 Training Sub-commissionとなり、引き続き会長として、Steve Long氏が選出された。写真左からPeter氏、Pavlos氏、Steve氏がならぶ。歴代部会長は、弁護士、大学教授とアカデミック色が強かったが、大きく実務派に変わったと考えられる。

2. 新規プロジェクトの検討

新執行部の登場によって、登山部会の今後の活動方針が議論された。新しいプロジェクトは8テーマとした。その内容は、Training Sub-commissionが直面する



課題として、インスタグラムやFacebook、メディアへの参考ビデオの制作などインターネット時代を反映した一般への話題提供手段に関する課題が取り上げられた。さらには世界的規模での山小屋としてのAirbnbの検討も注目された。他に、後述するISO承認問題への検討があり、私の事故統計データベースの構築も採用された。

3. ISO承認問題

会議中、紛糾した課題はPavlos氏から出されたISO認証問題である。現在、欧米のツアー会社を中心となって世界規模での冒険登山あるいはクライミングが企画、実施されている。そのような企業が、欧州連合を設立し、独自の基準でアドベンチャーツアー活動に関するISO認証を作成し始めたとのことである。その結果、UIAAを始め各国の山岳協会の立場が、これらの会社によって脅かされてきたので、UIAAはそのブランド力を強化する必要があるとの提案であった。そこで、UIAAと山岳協会がISO認証を取得することによって適切な手順と規格を開発し公表することができるとの提案であった。

この課題に関しては、新規プロジェクトとして動き出すことになった。

4. 各国のUIAA認証対応と日本側の対応問題について

香港のCHKMCUは、2019年10月に、ハイキングの認証取得に向けた査察を受けることになった。モンゴルはペトル基金の援助を受け、3年間トレーニングを実施することになった。マケドニアの検証調査が終了した。

日本からの検証申請が受理され、「夏山リーダ」に関する査察が8月に実施されることになった。本会議に先立ち、Steve氏と青山との間で、様々な認証上の問題点について話し合われた。そこで、Steve氏から「夏山リーダでは基本ロープワークを指導しない」という指導方針に関する問題点について指摘され、その事に対し、日本



側の立場を説明しながら議論したが、結論には至らなかった。日本側の考え方は、「我が国のハイキングコースではアルプスのかなり急斜面においても、鎖、梯子、ワイヤーなどが装備され、補助ロープは必要としない。また、初心者レベルに支点もなくロープ確保させるのは危険である」との考え方を伝えたが、そのような危険領域では、リーダーとして想定されるメンバーのアクシデントに対し、バランスを保たせる上でも、リーダーが接近する上でもロープワークを必要とするとの指摘であった。この問題は、本会議でも議論され、説明を求められたが、ハイキングリーダーでも基本ロープワークの知識と技術があった方が良いという意見が大半を占めた。

5. 登山風土に影響を受けた登山リスク感覚について

事故統計を担当する青山により、登山風土(登山習慣、地域性、気候、登山文化など)によって形作られる登山

リスク感覚が、遭難事故に大きな影響を与える事を報告した。その典型的な比較事例として、日英の事故発生状況に注目した。日本では「魔の2時」と言われる時間帯で事故がピークとなり、やがて5時過ぎには殆ど発生しなくなるが、英国では「魔の4時」となり、事故発生も深夜11時近くまで続くことが明らかになった。その背景には、日照時間の違いが登山習慣形成に大きく関係しており、事故さえも、それぞれの風土に見あった特徴を形作ることを紹介した。そこで、日本で韓国登山家が起こした遭難事例を紹介し、異なる風土で、登山を行うことのリスク問題について警告した。この研究報告は委員会で、強い関心を生み、各国の登山風土と登山リスクについて、新規プロジェクトとして研究することになった。

(遭難対策委員会 青山千彰)



事務局移転

岸記念体育会館の閉館に伴い本協会の事務局は、5月28日に下記の新会館に移転しました。

協会へお越しの際は、1階受付でビジターカードを受取り、ゲートを通過してエレベーターで8階へお越しく下さい。事務局は807号室です。

〈新事務局〉

〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号
Japan Sport Olympic Square 807
電話：03-5843-1631 Fax:03-5843-1635



令和元(2019)年度
5月常務理事会報告

日時 2019年5月9日(木)
18時～21時30分

場所 岸記念体育会館4F特別会議室

出席者 八木原会長、亀山、高橋、伊藤、平山の各副会長、尾形専務理事、小野寺、水島、相良、村岡、合田、小日向常務理事、仙石、蛭田、町田の各常務理事、

中島、古屋監事(17名中17名出席)
同席者 安井強化委員長

議事に先立ち、安井強化委員長から「東京2020オリンピックの選手選考について」説明があった。

説明文の解釈について幾つかの意見が出たが、戦略としては承認。唯、前提条件の加筆など誰もが理解できる表現に訂正することになった。

1. 議事

(1)平成31年度4月常務理事会・議事録の

承認について(事前送付済)異議なく承認された。

(2)平成30年度事業報告及び収支決算報告(案)について

小野寺常務理事より資料に基づいて事業報告の説明があった。未だ訂正箇所があり、監査後に再提出することになった。収支決算については相良常務理事より報告があった。本件についても監査後の再提出が必要となった。

(3)クライミングウォール公認申請(西条市、倉吉市)

2件とも異議なく承認された。

(4)正会員の除名について

当該岳連から新しい正会員の承認申請が未だ来ていない。状況を再度確認することになった。

(5)規程の追加(資金管理規程)と改定(組織管理運営規程、会計処理規程)について

- ・資金管理規程は、異議なく承認された。
- ・組織管理運営規程は、年間委員会活動は4月から3月が理想で前担当理事承認の委員長の下で計画する。6月から新担当理事が委員会にアサインされても、運用でカバーする。SC部に指導委員会設置を検討したい。などの意見があり、承認された。
- ・会計処理規程は、異議なく承認された。

(6)夏山リーダー関係規定について

蛭田常務理事から提案があった。例えばベテランであっても講習会免除はあり得ない等文言訂正について再度委員会に持ち帰り検討するという事で、承認された。

(7)パラクライミング世界選手権について

パラクライミング国際大会について日本パラクライミング協会から覚書を交わしたいとの提案があり、各種意見がでたが、今度の理事会に責任者の方に来て頂き、説明してもらうことになった。

(8)J S P Oスポーツ指導者表彰について

小野寺常務理事から資料に基づいて提案があった。指導委員会から推薦。

2. 報告

- (1)和歌山県山岳連盟からの意見書
議事(5)の組織管理運営規程と一緒に報告を行った。
- (2)加盟団体アンケート報告
高橋副会長から資料に基づいて詳細な報告があった。(回答は27件のみ。)
- (3)三重、埼玉岳連名称変更届について
小野寺常務理事から資料に基づいて報告

があった。

(4)安全登山サテライトセミナー

小野寺常務理事から資料に基づいて報告があった。

(5)BWC 5-6 戦派遣選手

村岡常務理事から資料に基づいて報告があった。

(6)スピード公認大会申請フォーム

村岡常務理事から資料に基づいて報告があった。

(7)SNS掲載文について

議事(7)と関連して報告が行われた。

(8)2019世界選手権について

村岡常務理事から資料に基づいて報告があった。

(9)オリピックのレガシーについて

小日向常務理事から報告があり、広島県でアーバンスポーツアカデミーを作るという構想に合いそうとのこと。未だ本決まりではない。

3. 後援報告、協賛等の依頼について

(1)認定国際山岳医講習会後援依頼

異議なく承認された。

4. 専門委員会動静 4月

(1)遭難対策委員会

4月24日(水)出席7名、スカイプ4名
 ア 常任委員(8名)
 委員長:町田幸男(群馬) 委員会総括
 副委員長:石田英行(大阪) 講習会及びレスキュー技術関連担当
 瀬藤武(埼玉) 総務関連担当、共済会担当
 事務局長:中丸忠男(神奈川) 事務、庶務、会計担当
 常任委員:楨昭善(東京) 建部雅史(東京)
 井上哲也(神奈川) 青山千彰(大阪)
 専門委員(13名) 松本光顕(東京) 服巻辰則(神奈川) 清水学(神奈川) 松本善行

(埼玉)、山新真人(埼玉)、恵秀彦(埼玉)、角田守(群馬)、町田雅美(群馬)、宮下直人(茨城) 安藤英一(山梨) 一本松文夫(兵庫) 島添誠(兵庫) 市川剛(兵庫)
 2018年度退任委員:常任委員:西内博(茨城)、専門委員:吉田法茂(東京)、森裕紀子(京都)

イ U I A A 会議報告について(青山委員)

- 期日: 3月30日~31日
- ①会長選挙が行われハンガリー出身の元副会長が新会長に選出された。
 - ②今夏U I A A 承認の査察に来日されるスティーブ氏より夏山リーダーの内容について質問を受けた。
 - ③スティーブ氏ウェルカムパーティーについて(期日: 8月12日予定)

ウ 全国遭難対策委員長会議・研修会参加について

エ AvSAR 理事会報告について

4月12日に理事会が開催され以下の内容が決議された。

- ①AvSAR 上級コース次回開催について
期日: 2020年2月14日~16日
場所: 土合山の家
- ②AvSAR 研修会について
期日: 12月14日~15日
場所: 東京予定
- ③2019年度AvSAR 監事の派遣について
日山協からは中丸常任委員をAvSARへ派遣する。

(2)山岳スキー委員会

- 4月17日(水) 出席10名、スカイプ10名
 ア 大会報告
 ①SKIMO in ban.K b.c.map CUP (3/30) スプリントレースの大会。
 ②白馬八方スーパーバーティカルレース (4/14)
 ③今後の予定
 I S M F シリーズ Elbrus Ski Monsters Expedition Race ロシア (5/2 Long Distance Team race)
 I S M F シリーズ Kamchatka race ロシア (5/3-4 Ver. Indi.)

イ 第13回日本選手権大会について
 エントリー実数71名(実出走68名)ー
 バーチャル45名(41名)、インディビ
 ジュアル68名(65名)

5. その他の重要事項

- 4月12日~5月8日
- (1)法人化サポート説明会 4月13日(出)
於: フォーラムエイト渋谷
尾形専務理事、合田常務理事
 - (2)日本スカイランニング協会との協議
4月15日(月) 於: 岸記念体育会館
亀山副会長、尾形専務理事
 - (3)J S P O 加盟団体事務局長会議
4月17日(水) 於: T K P 市ヶ谷カンファレンスセンター5F ホールA
小野寺常務理事
 - (4)F I S E 広島2019
4月19日(金)~21日(日) 於: 広島市旧市民球場跡地 八木原会長、平山副会長、村岡・小日向常務理事
 - (5)第74回茨城国体第1回基準会議
4月20日(土)~21日(日) 於: 茨城 鉦田

寄贈図書

寄贈本	酒井 國光	『登り続けて60余年』
	湯浅 美仁	前穂高東壁遭難63年目の検証
雑誌	(株)山と溪谷	「山と溪谷」2019/6月 No.1010
	(株)ネイチュアエンタープライズ	「岳人」No.864
会報	日本スポーツ振興センター	Sport Science in Elite Athlete Support Vol.3
	日本山岳写真協会	「日本山岳写真協会ニュース」4月号
	兵庫県山岳連盟	「兵庫山岳」第623号
	三栄書房	「RUN+TRAIL」Vol.36
	おいらく山岳会	山行手帖 No.713
	健康・体力づくり事業財団	「健康づくり」No.493
	日本万歩クラブ	「帰れ自然へアルク」6・7月号
	La rivista del Club alpino italiano	「M o n t a g n e 360」maggio 2019
	日本トレッキング指導者協会	JATI EXTRESS Vol.70
	中華民国山岳協會	中華山岳<雙月間> 270
	埼玉県山岳・スポーツクライミング協会	「埼玉岳連」第64号
	日本武術太極拳連盟	「武術太極拳」2019年5月No.356
	日本勤労者山岳連盟	登山時報6月号 No.532
新潟県山岳協会	「新山協ニュース」第342号	
FEEC	「VERTEX283	
東京野歩路会	「山嶺」Vol.96	
おいらく山岳会	「山行手帖」No.714	
日本山岳写真協会	「日本山岳写真協会ニュース」5月号	
大町山岳博物館	「市立大町山岳博物館 研究紀要 第4号」	
(公社)日本山岳会	「山」4月号 No.887	

村岡常務理事、西原国体委員長

- (6) J S P O加盟団体規程等改定案、スポーツ団体ガバナンスコード案説明会
4月25日(木) 於: T K Pガーデンシティ
渋谷4F ホール4A 尾形専務理事
- (7) 氷雪技術研修会
4月27日(土)~28日(日) 於: 富士山
蛭田常務理事
- (8) 倫理・A D研修会
4月29日(月) 於: 岸記念体育会館
合田常務理事
- (9) U I A A理事会
5月2日(木)~7日(火) 於: マルタ
八木原会長、小野寺常務理事
- (10) Japan Sport Olympic Square 現地調査
5月7日(火) 於: J S O S 新会館
尾形専務理事

表紙のこぼれ

ゼム氷河のグリーンレイクからの景観は、何と言っても鳳凰が翼を広げて飛翔するかの如く聳え立つカンチェンジュンガ東壁の威容だ。次に目を引くのが、恰もカンチェンジュンガのジャンダルムのように聳え立つシュガーローフ(6,455m)である。この山の命名もトウインズと同じく1899年のカンチェンジュンガ一周の折、この地を訪れたフレッシュフィールドによる。英語でSugarloafは、「とんがり帽子状の砂糖菓子。円錐形の帽子。すりばち山。」などの意味があるが、まさしくそのとおりの山容である。

初登頂は、1931年8月28日、P. パウアーの率いる第2次カンチェンジュンガ登山隊のE. アルヴァインとJ. プレンナーが測量を兼ねてトウインズ氷河の支氷河から初登頂。(写真撮影者 尾形好雄)

編集後記

J M S C A 公認メンバー制度「CLUB JMSCA ITADAKI」が創設されスタートした。サッカーや野球のファンクラブの様なもので、入会すると様々な特典が付与される。「頂-ITADAKI-会員」、「登-CLUB-会員」の入会コースがあり年会費6,000円と2,000円がある。20東京2020オリンピック後を見据え、財政基盤の一助になる様に育てていきたい。詳細は本協会HPのSC部お知らせを閲覧下さい。

(広報担当 水島彰治)

一般財団法人 日本トレイルランニング協会

〒252-0184
神奈川県相模原市緑区小淵1545-1
☎042-687-4011 FAX 042-687-3980
E-mail kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

NPO法人 北丹沢山岳センター
神奈川県・山梨県東部トレイルラン連絡協議会

事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1
TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980
E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

- ・北丹沢12時間山岳耐久レース実行委員会
- ・陣馬山トレイルレース実行委員会
- ・道志村トレイルレース実行委員会
- ・八重山トレイルレース実行委員会
- ・東丹沢宮ヶ瀬トレイルレース実行委員会
- ・上野原秋山トレイルレース実行委員会

大会々長 杉本憲昭

登山月報 第603号

定価 110円(送料別)
予約年間 1,300円(送料共)
昭和45年12月12日
第三種郵便物認可
(毎月1回15日発行)

発行日 令和元年6月15日
発行者 東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号
Japan Sport Olympic Square 807
公益社団法人
日本山岳・スポーツクライミング協会

電話 03-5843-1631
FAX 03-5843-1635

山岳
雑誌

岳人

がくじん

山と人、時代をつなぐ「岳人」



7月号
発売中

【特集】上高地

★モンベルのウェブサイト
全国のモンベルストアや書店にて発売中!

毎月15日発売 価格815円(+税)

年間購読がおすすすめです。

購読割引 送料無料 限定品プレゼント

年間購読なら、お得な価格で毎月お手元に冊子が届きます。

通常本体価格12冊 年間購読なら12冊
~~9,780円~~ (+税) → **8,965円** (+税)
1年間で815円
1冊分無料!

年間購読特典 岳人オリジナルグッズをプレゼント!

岳人
ミニワレット
(2個セット)

サイズ:9×10cm
※カラーはお選びいただけません



さらに はじめて
お申し込みの方に



岳人ピンバッジ

提携施設「岳人の湯」で提示すると
入浴料割引などの優待が受けられます。

年間購読の
お申し込み

WEB <https://www.gakujin.jp/>

全国のモンベルストア
でも受付中!

お問い合わせ

メンバー
ポスト

☎0120-982-682 / TEL 06-6538-5797
※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

あなたを守る。
あしたを作る。
三井住友海上

損害保険と聞いて、
なにを思い浮かべますか？

ケガ、災害、事故…日々の中で起こりうるリスクをカバーする。それは私たち三井住友海上の重要な任務ですが、すべてではありません。たとえば同じ自動車保険でも、暮らしの変化や自動車の進化を見つめて改善を続けること、宇宙開発や再生医療など、まだ世界にない保険を新しく作ることで社会の前進をサポートすることも、とても大切な役割です。変わらない一日に寄り添い、より豊かな明日を実現したい。だから私たちは、守ることと作ること、その両方を繰り返しながら前へ歩み続けます。

みつ い すみ とも かい じょう
三井住友海上
じ くう ぼ けん
時空保険
たん さ ぶ
探査部
Space-time Insurance
Exploration Department

人類にとっての
損害保険の
必要性を調査。

時空を超える
ゲート。

社員証をかざせば
タイムワープ。

立ちどまらない保険。

MS&AD

三井住友海上



山岳保険の加入は 登山者のマナーです

あなたの山岳保険は大丈夫ですか？

- 傷害死亡・後遺障害
- 遭難捜索費用
- 救援者費用
- 傷害入院費用
- 傷害通院費用
- 傷害手術費用
- 個人賠償責任

日山協 山岳共済会 〒170-0013 東京都豊島区東池袋 3-7-11-707

TEL 03-5958-3396 FAX 03-5958-3397

E-mail sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

月曜日～金曜日 10:00～17:00 (祝日除く)

携帯からも資料請求ができます。
公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会
携帯サイト (www.jma-sangaku.or.jp)



WEBからもお申込みいただけます (www.sangakukyousai.com)